

WHO世界患者安全の日 薬剤安全推進シンポジウム

2022年 **9月17日(土)****13:00 ▶ 17:00**Zoomウェビナー開催
(ライブおよびオンデマンド)

みんなでつながろう！

安全なお薬使用のバトンパス

～Medication Reconciliationを活用しましょう～

対象：医療・介護従事者、医療関連企業、
行政担当者、学生、一般市民**参加費無料**

世界保健機関(WHO)は2017年から『安全な薬剤使用』を世界患者安全チャレンジの第3のテーマとして取り上げており、具体的には①ポリファーマシー、②高リスクの状況、③ケアの移行があげられています。患者さんは、かかりつけ医から急性期病院、回復期施設、そして在宅といった多様な医療提供体制の狭間で治療を受けていますが、安全な薬剤使用のためには、全ての医療機関や医療従事者、患者・家族との連携・協調が不可欠であり、海外では“Medication Reconciliation”という言葉で表現されています。本シンポジウムでは、**ケアの移行期**における薬剤安全確保の在り方に焦点を当てて考えたいと思います。

趣旨説明

医療の質・安全学会副理事長 藤田医科大学病院 医療の質管理室 教授 **安田 あゆ子**

厚生労働省挨拶

厚生労働省 医政局 地域医療計画課 医療安全推進・医務指導室 室長 **梅木 和宣**

Message

医療安全全国共同行動よりメッセージ 東北医科薬科大学薬学部 薬剤学教室教授 **我妻 恭行**講演
1

安全に薬剤使用するための患者の役割は

認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML

理事長 **山口 育子**講演
2「お薬手帳」今後の課題を考える
ー開発時のコンセプトと現在のギャップー

医薬品安全使用調査研究機構 設立準備室

室長 **土屋 文人**講演
3

ケアの移行期における薬局薬剤師の役割

株式会社ファーマシー 医療連携部 部長 **孫 尚孝**講演
4

在宅療養患者の薬剤安全

～薬剤師と訪問看護師の連携～

東京大学大学院 医学系研究科 在宅医療学講座

特任研究員 **水木 麻衣子**講演
5Medication Reconciliation
& Patient safety (事前収録、日本語字幕あり)Clinical Director for Quality, Research and Academics
Peerless Hospital & BK Roy Research Centre, India

Dr Subhrojyoti Bhowmick

パネルディスカッション

ケアの移行期における薬剤安全：お薬のバトンパスはどうあるべきか？

閉会挨拶

医療の質・安全学会 理事長 京都大学医学部附属病院 医療安全管理部 部長・教授 **松村 由美**

後援

 厚生労働省 公益社団法人 日本看護協会 一般社団法人 医療安全全国共同行動 一般社団法人 日本病院薬剤師会
 公益社団法人 日本医師会 公益社団法人 日本薬剤師会 一般社団法人 日本医療安全学会 一般社団法人 日本保険薬局協会
ご参加は医療の質・安全学会HPにて受付中 <http://qsh.jp/>